

2011.5.7
於:東京大学

2011年度日本法社会学会学術大会・個別報告分科会A

幹部裁判官のキャリアパスについて

明治大学政治経済学部・西川伸一
nisikawa1116■gmail.com (■→@)
<http://nishikawashin-ichi.jimdo.com>

[内容]

- 1-3 「経歴的資源」とそれを用いた分析手法
- 4 事務総局局長の経歴的資源
- 5-6 地家裁所長の経歴的資源
- 7 事務総長、司研所長等の経歴的資源
- 8-9 高裁長官の経歴的資源
- 10 最高裁裁判官の経歴的資源
- 11 むすびにかえて

1: 「経歴的資源」とは

- 例) 東京高裁長官19人(矢口洪一→安倍嘉人)の経歴
 - 14人: 他の高裁長官
 - 16人: 東京高裁管内の地家裁所長
- 東京高裁長官になるには、他の高裁長官、および東京高裁管内の地家裁所長をつとめることが「必要条件」
- 「経歴的資源」=「将来のステップアップに有用と期待される経歴や過去の地位」
- 分析手法: ポストごとの歴代就任者の経歴的資源を累計する→そのポストに就くには、いかなる経歴的資源が有用かを解明する。
- 分析対象者/期間: 高輪1期~/2010年3月15日まで

2: 幹部裁判官ポストと経歴的資源の選定

列は幹部裁判官ポスト、行は経歴的資源

	大学	局付 所付	課長	調査官、司研教官、 行政省庁等出向	局長	地家裁所長	総長、司 研所長等	高裁長官
局長								
地家裁 所長								
総長、司 研所長等								
高裁長官								
最高裁 裁判官								

「総長、司研所長等」=事務総長、司法研修所長、最高裁首席調査官、法務省民事局長

「大学」=出身大学(東大/京大/国公立大/私大)

「局付 所付」=事務総局局付判事補(官房事務部局/事件関係事務部局)、司法研修所付判事補

「課長」=事務総局課長(官房事務部局/事件関係事務部局)

「調査官」=最高裁調査官

「司研教官」=司法研修所教官

3: キャリアパスの類型区分

	官房局 局付	事件局 局付	所付	官房局 課長	事件局 課長	調査官	司研教官	行政省庁 等出向
A	○	▲		○	▲	△	△	△
B		○			○	△	△	△
C		△			△	△	△	△
X		×			×	△	△	△
Y		×			×		×	

表のみかた:○は必ず就任、△はいずれかに就任、▲は就任の有無を問わない、
×は就任せず。

A: 事務総局官房事務部局の局付と課長をいずれも経験した者。

B: 局付・所付と課長をいずれも経験した者。

C: 局付・所付と課長のどちらかを経験した者。

X: 最高裁調査官、司法研修所教官、または行政省庁等出向を経験した者。

Y: これらポストのいずれの経験もない者。

4 : 事務総局局長の経歴的資源

経歴的資源		出身大学				類型区分				
事務総局局長(人数)		東大	京大	国公立大	私大	A	B	C	X	Y
官 房 局	総務局長(13)	7	4	2	0	3	7	3	0	0
	人事局長(9)	7	2	0	0	7	2	0	0	0
	経理局長(9)	8	1	0	0	3	4	1	0	1
事 件 局	民・行局長(14)	7	6	1	0	3	5	5	1	0
	刑事局長(12)	9	0	2	1	0	5	3	4	0
	家庭局長(11)	7	2	1	1	1	7	2	0	1
総人数(60)		41	12	5	2	14	28	12	5	1
%		68.3	20.0	8.3	3.3	23.3	46.7	20.0	8.3	1.7

複数の局長ポストに就く者がいるため、各列の合計数は総人数の行の各セルとは合わない。

5: 高裁管内別地家裁所長の経歴的資源

経歴的資源	出身大学					類型区分					総局 局長
	東大	京大	国公立大	私大	他	A	B	C	X	Y	
高裁管内											
東京(297)	157	44	40	52	4	21	46	59	109	62	42
大阪(115)	24	47	27	15	2	2	7	19	39	48	8
名古屋(129)	45	16	29	37	2	0	3	11	46	69	1
広島(130)	32	31	24	40	3	1	2	11	36	80	2
福岡(192)	60	34	50	43	5	3	4	21	52	112	1
仙台(120)	34	12	27	43	4	1	6	11	40	62	2
札幌(95)	31	15	23	25	1	1	3	18	38	35	1
高松(103)	27	25	16	26	9	1	1	4	25	72	0
合計(953)	333	172	189	235	24	25	55	116	309	448	48
%	34.9	18.0	19.8	24.7	2.5	2.6	5.8	12.2	32.4	47.0	5.0

高裁管内ごとの数は実数であるが、一つの高裁管内を超えて複数の所長ポストに就く者がいるため、各列の合計数は「合計」欄の行の各セルの数とは合わない。

6: 高裁所在地地裁所長の経歴的資源

経歴的資源	出身大学				類型区分					総局局長
	東大	京大	国公立大	私大	A	B	C	X	Y	
地裁所長										
東京(17)	14	1	2	0	1	7	4	5	0	9
大阪(14)	5	5	4	0	0	0	1	7	6	1
名古屋(15)	8	1	4	2	0	0	1	5	9	2
広島(11)	5	2	0	3	0	0	0	5	6	0
福岡(12)	6	1	3	1	0	0	0	4	8	0
仙台(16)	6	0	8	2	0	0	2	7	7	0
札幌(20)	4	7	7	2	0	2	4	9	5	1
高松(15)	5	3	1	6	0	0	0	3	12	0

広島、福岡は出身大学不明が1。仙台の国公立大8人中7人は東北大。

7: 総長、司研所長等の経歴的資源

経歴的資源	出身大学				類型区分					総局局長	地家裁所長
	東大	京大	国公立大	私大	A	B	C	X	Y		
事務総長(12)	8	4	0	0	6	3	2	1	0	11	9
司法研修所長(13)	8	4	0	1	4	2	3	4	0	9	13
最高裁首席調査官(10)	8	1	1	0	1	4	4	1	0	5	10
法務省民事局長(15)	12	3	0	0	0	0	3	12	0	0	13

法務省民事局長は法務省に出向した裁判官の最高峰ポスト。そののち裁判所に戻って、地家裁所長に就任する。

8: 高裁長官の経歴的資源

経歴的資源	出身大学				類型区分					総局 局長	地家 所長	総長 等	高裁 長官
	東	京	国	私	A	B	C	X	Y				
高裁長官	東	京	国	私	A	B	C	X	Y	総局 局長	地家 所長	総長 等	高裁 長官
東京(19)	13	6	0	0	5	10	3	1	0	15	18	10	14
大阪(15)	8	6	0	1	3	4	3	3	2	10	13	11	7
名古屋(19)	11	6	2	0	1	6	4	6	2	6	18	5	9
広島(21)	15	5	0	1	1	3	6	7	4	4	21	5	5
福岡(19)	13	3	3	0	0	6	8	5	0	9	21	6	3
仙台(18)	12	5	1	0	1	5	7	5	0	6	18	8	0
札幌(17)	9	2	3	3	2	4	2	5	4	3	17	2	0
高松(17)	5	10	2	0	0	2	4	4	7	1	17	0	0
合計(107)	63	30	9	5	11	26	26	29	15	35	104	37	
%	58.9	28.0	8.4	4.7	10.3	24.3	24.3	27.1	14.0	32.7	97.2	34.6	

「総長等」＝事務総長、司法研修所長、最高裁首席調査官、および法務省民事局長。
 複数の高裁長官ポストに就く者がいるため、各列の合計数は「合計」欄の行の各セルの数とは合わない。

9: 高裁長官の地家裁所長勤務地

列は高裁長官(人数)、行は各高裁管内地家裁所長

	東京	大阪	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	高松	未就任
東京(19)	16	2	0	0	3	1	0	0	1
大阪(15)	8	5	1	0	0	0	1	0	2
名古屋(19)	14	6	1	1	0	0	2	1	1
広島(21)	14	5	4	0	0	1	4	2	0
福岡(19)	17	2	1	0	3	1	2	0	0
仙台(18)	15	2	1	0	1	0	2	0	0
札幌(17)	12	3	3	0	3	4	2	0	0
高松(17)	8	8	1	1	1	0	4	2	0

高裁管内を超えて複数の所長ポストに就く者がいるため、各行の合計数は各高裁の人数とは合わない。

10: 最高裁裁判官の経歴的資源

合計	出身大学				類型区分					総局局長	地家所長	総長等	高裁長官
	東大	京大	国大	私大	A	B	C	X	Y				
27	18	7	1	1	5	12	5	5	0	18	25	23	26
%	66.7	25.9	3.7	3.7	18.5	44.4	18.5	18.5	0.0	66.7	92.6	85.2	96.3

地家裁所長を「飛び級」したのは、堀籠幸男と竹崎博允（現職）。
 総長等未就任は、大内恒夫、四ッ谷巖、町田顕、白木勇（現職）。
 高裁長官を「飛び級」したのは、千種秀夫。

最高裁裁判官への4ルート

- ① 事務総長ルート（竹崎博允・大谷剛彦）：東大/京大→A/B/C→総局局長→東京高裁管内の地家裁所長→事務総長→**東京**高裁長官→最高裁判事（竹崎のみ当初から長官）
- ② 司法研修所長ルート（金築誠志）：東大/京大→A/B/C→総局局長→東京高裁管内の地家裁所長→司法研修所長→**大阪**高裁長官→最高裁判事
- ③ 首席調査官ルート（千葉勝美）：東大/京大→A/B/C→総局局長→東京高裁管内の地家裁所長→最高裁首席調査官→**高裁長官**→最高裁判事
- ④ 法務省民事局長ルート（寺田逸郎）：東大/京大→X（法務省出向）→法務省民事局長→東京高裁管内の地家裁所長→**高裁長官**→最高裁判事

11: むすびにかえて

- 矢口洪一「〔人事局〕任用課長と〔高裁〕事務局長が相談して、案を詰めていく。そのようにしてできた案が人事局に集まって、さらに全体の案として調整して、人事局長の了承を取ります。」『矢口洪一オーラル・ヒストリー』（政策研究大学院大学、2004年）209頁。
- このプロセスで「経歴的資源」が勘案されているかはわからない。しかし結果として、高位ポストの就任者ほど「経歴的資源」に偏りがみられる。
- 派閥すら存在しない(?)同質的なエリート養成の是非
- 事実上の出世コースの存在と裁判官の独立

典拠文献：拙著〔2010〕『裁判官幹部人事の研究 「経歴的資源」を手がかりとして』五月書房。